

14 番（小川義昭議員）

おはようございます。

議席番号 14 番、市政会、小川義昭です。

通告に従い、一般質問を行います。

昨年夏の東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会は、コロナ禍の中でも難しい開催とはなりましたが、無事成功裏のうちに閉幕にこぎ着け何よりでありました。

さらに、我が白山市からもアーティスティックスイミング競技と水球競技において 3 名の選手が出場し、大活躍されたことは実に喜ばしく、誇らしくさえありました。

また、この春以降は、ロシアによるウクライナ侵攻が世界に暗い影を落とす中、アメリカのメジャーリーグ、エンジェルスの大谷翔平選手の活躍などが国民の心に一条の光を投げかけており、改めてスポーツの偉大さを感じている人々が多いのではないのでしょうか。

今年はサッカーの世界カップも秋に開催され、日々日本のトップアスリートの活躍が数多く報道され、国民の熱狂を呼び起こすことになるでしょう。しかしまた、こうしたプロスポーツ以外でも観るスポーツに加えて、パラ五輪などにみられる挑むスポーツ、支えるスポーツなどが大きく裾野を広げており、日本は今スポーツ文化が大きく変革する節目を迎えているような気配を感じているところであります。

このようなスポーツをめぐる潮流を一つの背景として、今会議での 1 番目の質問として、白山市におけるスポーツ環境の一層の充実を図る方策として、本市のスポーツ施策の拠点ともいえる松任総合運動公園の再生総合事業について質問いたします。

松任総合運動公園は、平成 3 年の石川国体開催に合わせて整備され、地域住民のスポーツ、レクリエーション、文化の拠点として様々な活動が展開できるカルチャーパークであります。公園内には体育館、陸上競技場、屋内運動場、人工芝グラウンド、テニスコート、屋外・室内プール、柔道・剣道場の啓武館、さらに日本庭園風水の杜・茶室安楽庵や芝生広場があります。

しかしながら、園内に足を一步踏み入れると雑草の繁茂が目立っています。これでは果たして公園全体として構築物などに対する通常の管理が行き届いているのか疑問が残ります。近年は地域住民の皆さんはもとより、県内外から数多くの青少年、一般成人たちが訪れ、公園内の各施設を利用されております。

松任総合運動公園の整備完了から約 35 年が経過した今、プールや体育館などの建物の設備の多くが老朽化ないし劣化、中には遊具の腐食化も進行しており、さらには施設そのものの規模や機能が時代にそぐわなくなりつつある懸念も膨らむ一方と断言していいでしょう。

こうした点を踏まえ、平成 30 年度に策定された第 2 次白山市スポーツ推進計画においても市民が安全・安心に施設を利用できるよう必要な管理水準を維持することが盛り

込まれ、施設の長寿命化と利用率の向上に向けて松任総合運動公園再生総合事業を推進することがうたわれております。

また、これと並行して、令和2年度には老朽化の状態等に応じた計画的な維持、更新等を推進することを目的とした白山市公共施設等個別施設計画が策定され、松任総合運動公園内の各施設においては、現在の施設を長寿命化していくこととし、今後計画的な改修改善などを行い、維持管理されていくことが示されています。

ところが、運動施設を利用される側からすれば安全・安心に利用できる施設、そのための適切な維持管理は大切なことには違いないものの、体育館一つを例に上げれば、フットサルのトップリーグチーム「ヴィンセドール白山」のホーム施設である点、バスケットボールやバレーボールのトップリーグの公式試合、全国規模の競技大会が頻繁に開催される点などに対する現状は、観客席が貧弱であり、現在の総合運動公園を名乗る施設としてはいささか規模が物足りない指摘を受けてもやむを得ないと言わざるを得ません。

さらに加えて言えば、現在6面しかないテニスコートは増設が望ましく、利用率の高い屋内運動場の再整備、駐車場の大幅な拡張など施設規模のさらなる充実を図ることが現実的な課題かと思われまます。

施設の老朽化、手狭さが求められる今でさえ数多くのスポーツ施設が集積、集約されている松任総合運動公園のような大型施設を保有している県内の自治体は、我が白山市だけであります。

幸いにも本市では、市民の皆さんの健康づくりの推進を目指した白山市健康づくり推進条例が今年4月に制定された矢先でもあります。こうした条例の後押しを受け、松任総合運動公園の整備に英知を注ぐことは、他の自治体が望んでも手にできない白山市の近未来の個性的な土地の魅力を磨き上げることにほかなりません。

以上のような観点から、私はこれからのスポーツ環境に十分対応できる新たな松任総合運動公園の大幅な拡張を含めた再整備が必要であると確信しています。

私見ではありますが、松任総合運動公園を市民ニーズに合わせてリニューアルしようとするれば、ある程度の大きな投資となり、5年から10年といったある程度の期間をかけ、財政面も配慮した都市戦略の位置づけで実行しなければならないかと考えます。

今石川県には、若い頃にオリンピックであり、その後もプロの一流アスリート、代議士となられて文部科学大臣も務められた馳浩知事がおられます。白山市が北陸のスポーツ文化拠点として名乗りを上げ、将来の都市構想にも位置づけることで馳知事にも協力を打診して、県を取り込むくらいの気概があれば実現の芽も膨らむのではないのでしょうか。

こうした幾つかの視点を踏まえ、長期的展望に立った松任総合運動公園再生総合事業構想に対して市長、そろそろ着手してはいかがでしょうか。また、県と足並みをそろえ

スポーツ施設にも造詣深い馳知事とのタッグマッチに挑む気概がおりかどうかも含め、市長の見解をお伺いいたします。